埼玉県統一美化活動週間

埼玉県連合会

県内7組合が26か所で実施・330余名が参加

10月1日から7日までの間を県統一美化週間としている埼玉県連合会（髙沢啓会長）では、期間中、県内の7組合が、26か所で330余名が参加し、美化活動や喫煙マナー啓発活動などを実施した。実施した組合と実施場所は次のとおり。

◆**埼玉中央組合**＝さいたま市緑区役所・JR南浦和駅・JR浦和駅東口・東武鉄道志木駅・JR上尾駅・さいたま市与野中央公園

◆**埼玉西組合**＝川越市川越大正ロマン通り・西武鉄道狭山ケ丘駅・ふじみ野市大井総合支所・東武鉄道坂戸駅

◆**埼玉北組合**＝JR本庄駅・東武鉄道羽生駅・JR深谷駅

◆**埼玉武蔵組合**＝JR高麗川駅・東武鉄道武州長瀬駅・JR及び西武鉄道東飯能駅

◆**川口組合**＝JR蕨駅・JR川口駅・JR西川口駅・JR及び埼玉高速鉄道東川口駅・東武鉄道新田駅

◆**埼玉東組合**＝八潮市八潮中央公園・東武鉄道新越谷駅・JR吉川駅・東武鉄道春日部駅

◆**東松山組合**＝東武鉄道森林公園駅

このうち、埼玉武蔵組合（若林紘一郎理事長）では、別掲のように3か所で美化活動を行ったが、JR高麗川駅では10月2日、日高市内の組合員・女性部のみなさんが駅周辺で、ゴミや吸い殻など拾い集めるとともに清掃などの美化活動を行った。

高麗川駅の美化活動に参加したみなさん

伝統の「秦野たばこ祭」で美化活動

秦野たばこ販売促進協議会

「秦野たばこ祭」の美化活動等に参加したみなさん

秦野たばこ販売促進協議会（秋山健夫会長）は、9月28、29日、神奈川県秦野市で開催された「第72回秦野たばこ祭」で美化活動を実施した。

「秦野たばこ祭」は、昭和23年から「秦野葉」の生産者（たばこ耕作者）を慰労する祭りとして始まった。「秦野葉」は、江戸時代に「水府葉」「国分葉」と並んで「三大銘葉」の一つとされ、江戸・明治・大正・昭和の時代を通じて、地域の振興・発展に大きく寄与した。

秦野市では、永年にわたり地域の発展を支えた歴史ある葉たばこ生産や、その技術の発展と生産者の努力が市の発展を支えたことを伝えることを目的として、葉たばこ生産が1984年（昭和59年）に終了した後も、「たばこ祭」の名称を残し、先人の努力と情熱を伝えている。

今年も天候に恵まれ、来場者が約35万人と大盛況の中、例年どおり秦野橋前の道路沿いに灰皿とベンチを配置して、愛煙家へ「憩いの一服の場」を提供するとともに、総勢15名が揃いのエプロンを着用し、祭り会場中心から秦野駅前にかけての清掃を実施した。なお、同協議会では毎月、小田急線渋沢駅等の近隣の美化活動も行っている。

現状・今後の対策等について活発に協議

組合役員・事務担当者会議

栃木県連合会

会議開催にあたり挨拶する樽見会長

栃木県連合会（樽見行雄会長）では9月18日、宇都宮市内のホテルで2019年度組合役員・事務担当者合同の会議を開催した。会議には、管内7組合・5支部の役員・事務担当者18名が出席したほか、来賓としてJT北関東支社の田川誠リレーション推進部長、石井満同推進部次長、たばこ生協本部の笹山章雄総務部長が臨席した。

会議では、JTの田川部長が「紙巻きたばこの販売状況ならびに加熱式たばこの状況等」について講話を行い、出席者からは現状や今後の対策について多くの質問、意見、要望があがるなど活発な協議・情報交換が行われた。また、笹山総務部長からは生協事業全般にわたる説明が行われ、具体的な実務内容についての質問もあり、充実した双方向の会議となった。

話題　11月14日より「glo sens（グロー・センス）」の販売エリアを拡大・10種類のフレーバーも新登場

BATJ

glo sens（グロー・センス）4種類

ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン（BATJ）では、東京都限定で販売、話題を呼んでいる「glo sens（グロー・センス）」の販売エリアを11月14日より拡大し、全国のgloストアとgloオンラインストアおよび、全国のコンビニエンスストアを含む主要たばこ販売店で販売する。

「neo pods（ネオ・ポッド）」10製品

今回、販売拡大されるglo sensには、「キット・ブラック」「キット・ホワイト」「キット・レッド」「キット・ブルー」の4種類があり、いずれも希望小売価格（税込）は4,980円である。また、同時にglo sens専用のたばこ製品「neo pods（ネオ・ポッド）」から、新たに10製品（各500円＝税込）を発売する。

「百害あって一利なし」言説の背景③

武田 良夫

Q　たばこは「百害あって一利なし」言説が社会的に浸透、定着していますが、その背景をどのようにお考えでしょうか。

A　オランダの社会学者、I・ゾラは「人々は、人生の究極の意味を宗教に求めるのに代わって、それを医療科学に求めるようになっている。それと同時に何かを成し遂げるための手段だった健康は、今やそれ自体が人生の目的になってしまった」（I・ゾラ「医療化する社会」／1972年）と指摘しましたが、〝健康のためなら死んでもよい〟と揶揄されるほど人々の〈健康至上主義〉は肥大化し、同時に社会的には〈医療化〉が進行しています。

こうした状況の下で「喫煙者は寿命が10年短い」「受動喫煙に安全なレベルはない」などと繰り返し吹き込まれれば、人々が「たばこは百害あって一利なし」に納得し、〈禁煙原理主義〉に傾くのは当然です。

〈健康至上主義〉と〈医療化〉

Q　〈医療化〉という言葉は聞き慣れませんが……

A　〈医療化〉は社会学の用語で、「病気、異常などのレッテル貼りが医療という専門職において義的に正当化され、そして日常生活の大部分が医療の対象とされることによって、医療による社会統制が行われるようになること」とされます（池田光穂「医療と神々」／1989年／平凡社）。

Q　2005年、日本循環器学会など9つの学会の合同研究班は「たばこを吸わない社会習慣の定着には喫煙を依存症と位置づけた上で、すべての医師が患者の喫煙を把握し、治療を勧めることが必要と判断した」と発表しましたが、〈依存症〉というレッテル貼りが医療という専門職においてやみくもに正当化され、医療化された例ですね。

A　2002年に成立した〈健康増進法〉は、第二条〈国民の責務〉で「国民は、健康な生活習慣の重要性に対する関心と理解を深め、生涯にわたって自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努めなければならない」と規定しましたが、まさに〈医療化〉推進法でしょう。これを受けて、喫煙率の低減や減塩の目標、がんの死亡率の削減目標※、あるいは認知症の抑止、健康寿命の延伸などの指針が次々と出されていますが、〝100歳時代〟が喧伝され、社会保障費の抑制が課題となる中で、〈医療化＝医療による社会統制〉はますます厳しくなると思われます。

※がんの〈死亡率削減目標〉を定める都道府県が多くなりました（左表参照）。最大の対策は受動喫煙防止で、32県は飲食店などの受動喫煙の数値目標を掲げ、秋田・宮城・茨城・兵庫の4県は「受動喫煙を0％にする」ということです。

Q　「健康はすべてに勝る」をスローガンに、禁煙運動を推進した「健康帝国ナチス」（R・N・プロクターの著書／2003年／草思社）を想起させますね。

A　〈健康至上主義〉〈医療化〉の肥大と共に、忘れてならないのは製薬会社の利益追求主義による市場拡大志向です。

「30年ほど前、世界有数の製薬会社メルクのCEOであったH・ガズデンの夢は、チューインガムのように、健康な人々に薬を売ることだった。そんな時代が来れば、メルク社は『あらゆる人に薬を売ることができる』ようになるだろう。それから30年、故・ガズデンの夢は実現した。今や、世界的な巨大製薬会社の販売促進戦略では健康な人がターゲットに据えられている。そうして、普通の人がどんどん病人にされていくのである」（R・モニハン「怖くて飲めない」―薬を売るために病気はつくられる―／古川奈々子訳／2006年／ヴィレッジブックス）と書かれている通りです。

Q　健康な喫煙者でも〈ニコチン依存症〉の患者にされ、医師の指導の下で禁煙補助薬を使う〝治療〟が医療保険の対象になったのは好例ですね。

A　禁煙治療は医療産業にとって〝オイシイ〟ビジネスです。イノチにかかわることはありませんし、〝治療〟に成功しなくても患者は「自分の心掛けが悪かったのだ」と反省し、医師の責任やクスリの効能が問われることはありません。

人々の〈健康至上主義〉に便乗して「たばこは百害あって一利なし」をアピールし、禁煙原理主義を推し進めることは製薬業界にとっても大きなメリットがあるのです（〝患者＝喫煙者〟は1880万人／2018年）。製薬会社御用達の学者や医師が活躍する背景です。

〈がんの死亡率削減目標〉

目標の有無	都道府県
数値あり（30都府県）	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、岐阜、愛知、京都、大阪、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、香川、愛媛、福岡、長崎、大分、鹿児島、沖縄
独自の数値（9都府県）	長野・広島（全国1位：最も低い）兵庫、北海道、山口、宮崎、山梨、三重、徳島
明確な設定なし（7県）	栃木、群馬、埼玉、滋賀、高知、佐賀、熊本
その他（1県）	静岡（がん死亡者を人数で表示）

（2019.9.28/朝日新聞から引用）